

## 安全データシート (SDS)

作成日 2001年 2月15日

改訂日 2016年11月 7日

## 【1. 製品及び会社情報】

製品名 : ケミQ SX-3  
会社名 : 株式会社ケミック  
住所 : 〒594-1144 大阪府和泉市テクノステージ1-2-1  
電話番号 : 0725-51-0031  
FAX番号 : 0725-51-0033  
推奨用途及び使用上の制限 : 工業用洗浄剤

## 【2. 危険有害性の要約】

GHS分類 (記載のないものは区分外、分類対象外または分類できない)

物理化学的危険性

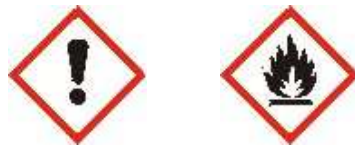
引火性液体 : 区分3

健康に対する有害性

特定標的臓器/全身毒性(単回暴露) : 区分3 (麻酔作用)

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 引火性液体及び蒸気  
眠気やめまいのおそれ

注意書き

[安全対策] : 指定された個人用保護具 (保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等) を着用する。  
熱、火花、高温体等の着火源から遠ざける。禁煙。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明装置、火花のでない工具を使用する。  
静電気放電に対する予防措置を講ずる。他の容器に移し替える場合は、必ずアースをする。  
粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避ける。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。  
容器を密閉しておく。  
取扱い後は手や顔などをよく洗う。  
取扱い後は眼をよく洗う。

[応急処置] : 吸入した場合 : 呼吸が困難な場合には空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
気分が悪い場合は、医師の診断/手当てを受ける。  
飲み込んだ場合 : 口をすすぐ。無理に吐かせない。  
気分が悪い場合は、直ぐに医師の診断/手当てを受ける。  
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。  
眼に刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受ける。  
皮膚についた場合 : 汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。

汚染された衣服を再利用する場合には洗濯する。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受ける。

火災の場合：消火に粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、耐アルコール性泡消火剤、噴霧水を使用する。

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

[保管] : 容器を密栓し、涼しい所／換気の良い場所で保管する。

施錠して保管する。

[廃棄] : 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し、廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守し、適切に処分する。

### 【3. 組成及び成分情報】

単一製品・混合物の区別 : 単一物質

化学名 : プロピレングリコールモノメチルエーテル

主な成分 : プロピレングリコールモノメチルエーテル

労働安全衛生法：危険物（引火性の物）

名称等を表示および通知すべき危険物及び有害物

プロピレングリコールモノメチルエーテル 99%以上含有

### 【4. 応急措置】

吸入した場合 : 被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
暴露あるいは暴露の懸念がある、又は気分が悪い場合は、医師の診断／手当てを受ける。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。  
刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹼で洗う。  
汚染された衣服を再利用する場合には洗濯する。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受ける。

飲み込んだ場合 : 口の中が汚染されている場合は水で口の中を洗浄する。  
無理に吐かせず、医師の診断／手当てを受ける。

予想される急性症状 : 吸入：咳、頭痛、めまい等

及び遅発性症状 : 経口：嘔吐、下痢等

皮膚に付着：発赤、痛み、皮膚炎等

眼に付着：発赤、痛み等

応急措置をする者の保護 : 被災者を救助する場合は、【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の適切な保護具を着用する。

【5. 火災時の措置】 本製品は消防法 危険物第4類 第2石油類（水溶性）に該当する。

消火剤 : 粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、耐アルコール性泡消火剤、噴霧水

使用してはならない消火剤：棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

特有の危険有害性 : 高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。

燃焼の際は、一酸化炭素、煙等が生成される。

特有の消火方法 : 関係者以外は安全な場所に退避させる。

周辺の設定等に散水して冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。

消火作業は可能な限り風上から行なう。

消火を行なう者の保護：状況に応じた保護具（自給式呼吸器、防火服、防災面等）を着用する。

## 【6. 漏出時の措置】

- 人体に対する注意事項：漏れた場所の周辺から人を退避させる。
- 保護具及び緊急時措置：関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 作業者は【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
 風上から作業する。
- 環境に対する注意事項：流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないようにする。
- 回収、中和：吸収材（乾燥砂、土、ウエス等）で取り除き、密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：全ての着火源を速やかに取り除き、危険なく出来る場合は漏出源を遮断し、漏れを止める。  
 盛土、プラスチックシート等で散乱を防ぐ。  
 漏出物を吸収材（乾燥砂、土、ウエス等）で取り除き、密閉できる空容器に回収する。  
 回収物は適切に廃棄処分する。
- 二次災害防止策：漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

## 【7. 取扱い及び保管上の注意】

## 取扱い

- 技術的対策：指定数量以上の量を取り扱う場合は、法で定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。  
 熱、火花、炎、高温体等との接触を避ける。  
 みだりに蒸気を発散させない。  
 【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行ない、保護具を着用する。  
 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。  
 容器を転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いをしない。
- 局所排気・全体排気：【8. 暴露防止及び保護措置】に記載の設備対策を行なう。
- 安全取扱い注意事項：指定された個人用保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等）を着用する。  
 熱、火花、炎、高温体等との接触を避ける。禁煙。  
 粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避ける。  
 取扱い後は手や顔などをよく洗う。  
 取扱い後は眼をよく洗う。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。

接触回避：【10. 安定性及び反応性】を参照。

## 保管

- 技術的対策：保管場所の床は、床面に水が浸入／浸透しない構造とする。  
 保管場所には、必要な採光、照明及び換気の設備（防爆タイプ）を設ける。
- 保管条件：直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。  
 容器は密栓して保管する。  
 施錠して保管する。  
 法規に規定された基準に従って保管する。  
 混触危険物質と同一の場所に保管しない。

混触危険物質：強酸化剤、酸塩化物、酸無水物

容器包装材料：製品使用容器に準ずる。

## 【8. 暴露防止及び保護措置】

- 管理濃度：データなし
- 許容濃度：100 ppm（TLV-TWA、2005年度版ACGIH、プロピレングリコールモノメチルエーテル）
- 設備対策：取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。  
 空気中の濃度を暴露限界以下に保つ為に排気用の換気を行なう。  
 蒸気又はミストが発生する場合は、全体又は局所排気用の設備（防爆タイプ）を設ける。
- 保護具
- 呼吸器系：必要に応じ、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器を使用する。
- 手：不浸透性（耐油、耐薬品、耐溶剤）の保護手袋を使用する。

- 眼 : 保護眼鏡（普通眼鏡、側板付き普通眼鏡、ゴーグル型）を使用する。
- 皮膚及び身体 : 不浸透性の保護服、保護長靴、保護前掛け等を使用する。
- 衛生対策 : 粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避ける。  
 取扱い後は手や顔などをよく洗う。  
 取扱い後は眼をよく洗う。  
 汚染された衣服を再利用する前に洗濯する。

## 【9. 物理的及び化学的性質】

- 外観 : 無色～淡黄色液体
- 臭気 : 特異臭
- PH : データなし
- 融点 : 約-9℃
- 沸点 : 約120℃
- 引火点 : 約31℃ (SETA 式)
- 発火点 : 約285℃
- 爆発範囲 : 上限13.8% 下限1.5%
- 蒸気圧 : 15.6 hPa (25℃)
- 蒸気密度 : 3.11 (空気=1)
- 比重 : 0.90～0.94 g/cm<sup>3</sup> (15℃)
- 溶解度 : 水に任意の割合で溶解
- 粘度 : 1.9cP (20℃)

## 【10. 安定性及び反応性】

- 安定性 : 通常の使用環境の温度条件下で安定。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤、酸塩化物、酸無水物と反応する。  
 特定の条件下で爆発性過酸化物を生成する可能性があるとして推測される。
- 避けるべき条件 : 混触危険物質との接触。  
 加熱、はだか火、スパーク及びその他の発火源との接触。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、酸塩化物、酸無水物
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼の際は、一酸化炭素、煙等が生成される。

## 【11. 有害性情報】

- 急性毒性 : 経口 : LD<sub>50</sub> = 4000 mg/kg 以上 (ラット) と推測される。  
 経皮 : LD<sub>50</sub> = 2000 mg/kg 以上 (ウサギ) と推測される。  
 吸入 : LC<sub>50</sub> = 25.8 mg/L / 6 Hr (ラット)
- 皮膚腐食性／刺激性 : 皮膚への影響は少ないが、長時間接触すると皮膚表面の種々の組織を侵し、皮膚炎を起こす可能性がある。
- 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 : 眼への影響は少ないが、軽度の不快感を及ぼす可能性がある。
- 呼吸器感作性 : モルモットを用いた皮膚感作性試験で感作性なし。
- 皮膚感作性 : データなし
- 生殖細胞変異原性 : マウス骨髄赤血球を用いた小核試験で陰性。
- 発がん性 : ラット及びマウスの雌雄に2年間吸入暴露により、暴露に関連する腫瘍発生頻度の増加は、両動物種雌雄のいずれの組織においても認められなかった。(SIDS(2001))
- 生殖毒性 : ラット及びウサギの器官形成期に吸入暴露した試験 (SIDS(2001))、又、ラット、マウス及びウサギの妊娠期間に経口暴露した試験 (SIDS(2001)) では、一部の試験で骨化遅延を認めたのみで、催奇形性を含め仔の発生に対する悪影響は見出されなかった。
- 特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露) : ラットの経口投与では傾眠、協調障害性歩行、運動失調 (ECETOC95(2005))、吸入投与では横臥位、無反応、中枢神経抑制 (SIDS(2001))、又、ウサギの経皮投与では軽度の脱力、し眠から深麻酔の状態まで程度の異なる麻酔兆候 (ECETOC95(2005)) が報告されている。
- 特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露) : ラットでの3ヶ月間連続飲水投与試験、イヌでの14週間飲水投与試験、ラット及びウサギでの3ヶ月間連続経皮投与試験、ラットでの3ヶ月間連続吸

入暴露及びマウス、ウサギ、モルモット、サルでの3又は6ヶ月間反復吸入暴露試験の何れも区分2のガイダンス値範囲内の投与量では毒性は認められず。

吸引性呼吸器有害性：データなし

#### 【12. 環境影響情報】

##### 生態毒性

- 水生環境急性有害性 : > 500mg/L/4Hr (オオミジンコ)  
 水生環境慢性有害性 : 水生生物に対して慢性毒性を及ぼすことは予測されない。

- 残留性/分解性 : データなし  
 生体蓄積性 : データなし  
 土壤中の移動性 : データなし  
 オゾン層への有害性 : データなし

#### 【13. 廃棄上の注意】

- 残余廃棄物 : 廃棄においては、特別管理産業廃棄物（廃油）に該当する。  
 関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。  
 都道府県知事などの認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体が行なっている場合にはそこに委託して処理する。  
 廃棄物の処理を委託する場合は、処理業者等に危険性、有害性を十分告知する。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去し、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。  
 空容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。(残留物が爆発・引火する恐れがある。)

#### 【14. 輸送上の注意】

##### 国際規制

- 国連番号 : 3092  
 国連分類 : クラス 3 (引火性液体)  
 容器等級 : PGIII

国内規制 : 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上輸送 : 消防法 危険物第4類第2石油類 (水溶性)  
 労働安全衛生法；通知対象物質、危険物 (引火性の物)

海上輸送 : 船舶安全法の規定に従う。(高引火性液体類)

航空規制 : 航空法の規定に従う。(引火性液体)

特別な安全対策 : 運送容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。  
 指定数量以上を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。  
 陸上運送の場合、運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。  
 第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。  
 輸送用容器 (タンカー、タンク車、タンクローリーを除く) は危険物規制に関する別表第3の2項に定めたものを使用する。  
 その他関係法令の定めるところに従う。  
 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。  
 衝撃、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。  
 容器が破損しないように、転倒、落下、衝撃、引きずり等の乱暴な取扱いは避ける。

#### 【15. 適用法令 (日本)】

- 化管法 (PRTR法) : 該当しない  
 労働安全衛生法 : 危険物 (引火性の物)  
 名称等を表示および通知すべき危険物及び有害物法  
 プロピレングリコールモノメチルエーテル 99%以上含有  
 毒物及び劇物取締法 : 該当しない

消防法	: 危険物第4類 第2石油類（水溶性） 危険等級Ⅲ
廃棄物処理法	: 特別管理産業廃棄物
有機溶剤中毒予防規則	: 該当しない
火薬類取締法	: 該当しない
高圧ガス保安法	: 該当しない
船舶安全法	: 高引火性液体類
航空法	: 引火性液体

---

**【16. その他の情報】**

この「安全データシート」は当社の製品を安全にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常的な取扱いを対象にしたものです。本製品の使用方法については、この「安全データシート」をご参照の上、ご使用者様の責任においてお決め下さい。

記載内容は、N I T E（独）製品評価技術基盤機構）のGHS危険有害性分類事業にて公開されたデータや原材料のSDS等、作成日又は改訂日における弊社の最善の調査で得た知見に基づき作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではなく、記載のデータや危険有害性の評価に関して完全さを保障するものではありません。記載内容のうち、成分及び含有量、物理化学的性質等の値は保証値ではありません。

「安全データシート」の内容は、法令の改正や新たな知見に基づき改正される場合があります。